羅府新報

(6)　2016年（平成28年）　12月22日（木曜日）

南加キリスト教教会連合

クリスマスプレゼント

市川　祥

「サンタクロースがプレゼントを子供たちに贈る」という伝統は4世紀頃、教父聖ニコラウスが貧しい家庭の窓に金貨を投げ入れたところ、その金貨が暖炉に下げられていた靴下に入ったという逸話が起源になっています。そして日本にも明治時代に、初めて欧米から「サンタクロース」が紹介されました。1898年（明治31年）に発行された教会の日曜学校の教材には「サンタクロース」は「北国の老爺（おやじ）　三太九郎」と書かれたそうです。なんか演歌に出てきそうですね。これを読んだ時には私も声を出して笑ってしまいました。

東京のある私立中学校で「クリスマスのプレゼントは何が欲しいか？」というアンケートを生徒に行ったところ3年連続で1位は「スマートフォン」だったそうです。そしてその理由は「スマホがあればいつも友達とつながっていられるから」だそうです。東日本大震災以降日本では「絆、つながり」という言葉があふれています。不安、失望、喪失、虚しさがあふれる現代において「つながっていたい」という思いはますます社会に強くなっているのです。

ところで皆さんは人類の歴史の中で一番最初のクリスマスプレゼントも実は「つながり、絆」を与えるプレゼントだということを知っていましたか？　なんとサンタクロースが歴史に登場するずっと前から聖書は一番最初のクリスマスプレゼントについて記しているのです。

「神は、実に、イエスキリストをお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」（ヨハネの福音書3：16）。つまり最初のクリスマスプレゼントとは「神」からこの世界に贈られた「イエスキリスト」そのものなのです。そしてこの神からのプレゼントを受け取るなら誰もが真の「つながり、絆」を受け取ることが出来るのです。それはつまり「神との永遠の愛のつながり」なのです。

スマートフォンで友達やインターネットとつながることも一時的な楽しみや平安を与えるかもしれません。しかし私たち人間を創造された神と「愛のつながり」はもっと大切であり重要なことなのです。そもそも「クリスマス」という言葉の意味は「キリストのミサ」つまりイエスキリストの誕生をお祝いし、礼拝するという意味なのです。

ぜひ聖書の中にこのクリスマスの真実を探してください。そして一度お近くの教会に足を運んで「永遠の愛のつながり」を与えるイエスキリストというクリスマスプレゼントを受け取られてはいかがでしょうか？

（カマリロ教会牧師）